

高賀山信仰が息づく洞戸

ぬえ  
伝説の鶴 (さる・とら・へび) 展

ふたた ようかいでんせつ よみがえ  
今年の夏、再び妖怪伝説が甦る



片の津島神社に伝わる奉納額

〈日 時〉平成28年8月9日(火)～28日(日)  
9:00～17:00 月曜日休館

〈開催セレモニー〉 8日(月) 19:30～20:00

〈会場〉ほらどふれあいセンター

- 【内容】 ①伝説にまつわる資料、写真の展示  
②奉納額の除幕  
③高賀山信仰の伝説についての講話(展示説明)

〈主催〉ほらど未来まちづくり委員会 誇りの部会

〈後援〉関市教育委員会

〈協賛〉高賀神社・片津島神社・矢作神社・上矢作神社  
高賀自治会・片自治会・下菅谷自治会・上菅谷自治会



# 鶴ぬえ（さる・とら・へび）伝説の縁ゆかりの場所解説

— 高賀山信仰が息づく洞戸 —

## 【鶴伝説のあらすじ】

都に鶴が現れ人々を苦しめたので、鶴の居場所を確かめると都から丑虎うしとらの方角の高賀山であった。そこで、帝は藤原高光公を使わし神社を建て虚空蔵菩薩の加護の下、見事に鶴を退治することが出来た。そして、都や村に平和が訪れ人々は安心して暮らせるようになった。

### ①峰稚児神社（高賀）

鶴が都から子どもをさらってきて、岩の上で八つ裂きにしたと伝えられている場所。岩の上には祠が祀られており、どんなに強い風が吹いても、吹き飛ばすことはないと言われている。

### ②鶴柳 石碑（山県市高富）

鶴が都から飛んできて、一休みして高賀山の方向に飛び去った場所。この場所は、かつて池があつて大きな柳が生えていたと言われている。

### ③思案権現 石碑（上菅谷）

藤原高光公が高賀山を眺めて、鶴をどのように退治するか思案を巡らせ作戦を練った場所。ここからは、高賀山とそれに連なる山々が一望できる。

### ④草鞋ヶ森（下菅谷）

高光公が高賀山を目指し東に進み、森へ来たとき草鞋が切れたので、新しい草鞋に履き替えた場所。ここは、藤ヶ森とも言われ大きな森になっていたと言われている。

### ⑤笠神神社跡（高賀）

高光公が板取川を渡って高賀地区に入り、石に腰掛け一休みしたと言われる場所。腰掛けた石は道路拡張工事で埋められてしまった。山の上には神社跡があり笠を逆にした形の石がある。

### ⑥牛戻し橋（高賀）

高賀川に掛かる橋で、ここからは牛がおびえて一步も前に進まない場所。鶴の鳴き声が牛に似ていると言われており、高賀には現在でも牛が飼育されていない。

### ⑦矢木（下菅谷）

鶴を退治するための矢（女竹）を調達した場所。菅谷地区には、女竹がたくさん生えていたと言われている。

### ⑧砥石ヶ洞（上菅谷）

矢の先につける鏃を磨くための砥石を採集した場所。山には堆積岩の層があり、良質な砥石が露出している。

### ⑨瓢箪池（美濃市片知）

鶴が大きな瓢箪に化け、池のほとりの大木にからみついて身を隠していた場所。風にもゆれないひときは大きな瓢箪めがけて矢を放ち、見事射止めることが出来た。

### ⑩骨ヶ平（美濃市片知）

討ち取った鶴の骨を焼き払った場所。池の近くで高賀山の中でも、最も平らになっているところ。

### ⑪高賀神社（高賀）

虚空蔵菩薩の信仰により鶴退治を祈願して神社建てる。高賀山信仰の中心をなす神社で、神像をはじめ数多くの高賀山の神々が祀られている。

### ⑫矢作神社（下菅谷）

鶴を退治した矢を菅谷で作った事により、矢をご神体として神社を建てる。450本あまりの矢が、三つの束にして祀られている。

### ⑬矢作神社の矢の紋章（下菅谷）

殺傷能力を高めた二種類の鏃の先を、神社の紋章として掲げている。神社の蔵の壁に掲げられており、神事で使われる壺や湯飲にもつけられている。

### ⑭上矢作神社本殿（上菅谷）

神社に伝わる明治10年の記録には、宝物は鶴と牙七つがあると記されている。「旧村誌」には太刀一口、妖怪の牙、鏡があると記されている。

### ⑮上矢作神社の板書（上菅谷）

保福寺の第五世、南禅化龍（1662～1710）が板に書いたものが残されている。鶴退治により村が平和になり、菅谷の匠である阿曾大工が神社を修理し再建したと書かれている。

### ⑯上矢作神社本殿の猿の彫り物（上菅谷）

神社の本殿の彫り物の中に猿の彫刻がある。

### ⑰津島神社（片）奉納額

修復が行われた奉納額が納められていた神社。明治18年（1885）酉年の船渡氏が奉納したと記されている。

### ⑱思案権現から見た高賀山

思案権現から高賀山を遠望する。右側の高くなっている峰に峰稚児神社がある。高い峰で鶴を退治したことによって、よろこぶと言う意味を込めて賀をつけ高賀とした。